

至七〇名の固定教室をもったクラスに編入される。そして二年間このクラスの住人になるのである。クラスにはそれぞれ指導教授がある。指導教授は単にある学科の教授であるばかりでなく、クラスの全員のあらゆる相談に応じる。例えば、教室外の問題、経済上のことや、恋愛問題などにも、親切な相談役になってくれる。そして、指導教授の手におえない問題ならば、学生部と連絡して、解決の方法を講じてくれる。云々。つまり指導教授とその学生との関係は、学内における父子兄弟のようなもので、学生は教授を通じて何らかの人生をつかむのである。

一般教養課程の学科は、専門課程へ進むための基礎科目でもあり、またそれ自体、円満な教養的人格を陶冶するためのものでもあるので、広範囲にわたっている。例えば、経済学部をサンプルにしてみると、キリスト教倫理、文学、哲学、音楽、聖書概論、歴史、心理学、法律学、人文地理、数学、科学、生物学、英語、独語または仏語、体育で、学生は規定の時間制に従って、これらの殆んど全部を学習するのである。とくに、キリスト教倫理と聖書概論は、宗教教育の大綱として、素直な宗教的感情と透徹した人生觀を涵養するために、二ヶ年を通じて履修することになっている。

一般教養課程のうちには、午後は殆んど授業はない。午後は一人で勉強し、または部活動によってカレッジ・ライフを享受する時間である。或いはチャペルで、或いは図書館で、或いはグラウンドで或いは部室で、学生はそれぞれ何物かを身につけるのである。

## 文 學 部

文学部の歴史は、明治二十七年から始まっている。デー・エス・チング氏を校長とした当時の立教学校は、補充科、普通科、専修科の三科組織であったが、その専修科は、哲学、歴史、文学の三分科があってそれぞれの専門学を講じたのである。これが明治四十年九月に立教学院立教大学が開校されたときに文科となったのである。

現在の文学部は、英米文学科、キリスト教学科、史学科、社会科、心理教育学科に分れていて、学部長は菅岡吉教授である。

英米文学部は英文学を主軸として、これに本学の伝統である米文学の研究が加わっている。米文学は独特のもので、その研究は十九世紀の詩人や Emerson, Thoreau, Whitman, Poe, Irving 等、二十世紀の Hemingway, Steinbeck, Anderson, T. S. Eliot 等を対象として行われている。米文学を学問としてとりあげたのは、本学が日本で最初である。しかし、英米文学科の特長はこれだけではない。時代の要求にも応じ得るために実用英語の科目を設けている。

即ち、数多のアメリカ人教授による会話、内外の新聞を主とした時事英語、日本文学の英訳などである。日本文学の英訳は、森鷗外「雁」や中河与一の「失業の庭」などをとりあげ、「失業の庭」は近く出版の運びにいたっている。こうした実用英語があるため、この学科の卒業生は、学校の教師、ジャーナリズム関係に進出するばかりでなく、上海香港銀行、Bank of America など、金融実業方面にも、新しい分野を開きつつある。

また、この学科では、特に講義を少数の学生に限定分散し、ゼミナール式に講義を進め、常にレポートをとる等、学生の訓練は猛烈である。またこの学科は、昭和五年に第一号を世に送ってから

「英米文学」を機関紙として、昭和二十七年度には第十四号を出した。この機関紙は英米両国にも広く送られ、ハーバード大学等一流の諸大学から礼状がきている。この他に「英米文学会」を隔月に出しているが、これは学生の執筆になるものである。

キリスト教論は、本学の建学精神の根柢であるキリスト教に関して、学問的な研究を行う学科である。これも古くから設置された学科で、戦前までは宗教科とよばれていた。当時の学生の中には日本聖公会神学院と両方に学籍をもっていた勉強家もあり、卒業生の大部分が宗教科関係の分野で活躍している。今次大戦にあたっては最も迫害された学科の一つであるが、戦後いちはやくキリスト教と改称して復活した。

現在では、教会は勿論、教育、社会、文化事業の各方面で、キリスト教精神に基く働きが強く要望され、今後ますます拡大強化されなければならない。この学科は、将来こうした方面で活動しようとする者にとって、欠くことのできないキリスト教への深い理解を与えようとしているのである。

必修科目には、旧約概論、旧約釈義、新約概論、新約釈義、ヘブル語、新約ギリシア語、キリスト教史、旧約時代史、新約時代史、哲学史、神学概論その他がある。

史学科の歴史もまた古いが、大学の一学科として確立したのは大正十四年四月である。昭和三年十月から、研究機関誌「史苑」を発行して十五卷まで世に出たが、戦争のために中断し、史学科自体も昭和十九年に閉鎖された。「史苑」は、当時、我國の三大史学雑誌の一つとして、その高い学問的水準と漸進的研究は、常に専門家の間で賞讃されていた。昭和二十四年に新学制に切り換えた時また復活して

現在に至っている。「史苑」の復刊計画も立てられて、着々と実現の運びにいたっている。この科の特色は、アメリカと関係の深い本学の特色を生かして、西洋史、ことにアメリカ史に講座の重点を置いていることである。アメリカ史では、日本人教授のほかは、若い気鋭のアメリカ人教師も講義を担当している。この他に、勿論日本史、東洋史もある。

必修科目には、史学研究法、西洋史概説、東洋史概説、日本史概説、人文地理概説、歴史地理学、西洋史特殊講義四、東洋史特殊講義二、日本史特殊講義二、先史学、民族学その他がある。

社会学科は昭和二十二年四月に開設された。新しい社会科学を基盤として、労働問題、職業問題、社会問題、文化問題の解決に挺身しようという学徒を養成することが、その目的で、キリスト教精神に即して、社会奉仕者であるのに必要な基礎的の素養を授けている。つまり「社会学科」とは全く別物で、独特のものである。

この科は、労働管理、職業指導、社会福祉、文化事業の四専攻班に分れていて、学生がどの班に属するかは、一般教養課程を了えて専門課程にはいるとき、各学生の希望によるのである。労働管理班では、生産方式が高度に高度化した産業界に起る、新しい労働問題を解決して、産業界の合理的な運営を推進するのに必要な学問的基礎を考究している。この種の学問は日本には新しいもので、卒業生は産業界に進出して大きな成果をあげている。

社会福祉班は、昭和二十七年三月までは社会事業班と称していたが、四月から改称されたのである。この班は、本学のモットーである「神と国とのために」を、そのまま社会に適用してゆく専攻班だといえる。つまり、文字通り社会の福祉を実現するための奉仕の方法を考究している。この班

は、「社会事業学会」をもち、学問的研究に精進するとともに、實際的な行事も行っている。立教祭に施設の児童を招待して、各施設対抗野球大会を催しているのは、その一例である。

職業指導班は、人間の個性と職業との関連によって、人が生き甲斐と幸福とを感得し、もって社会へ寄与することを学問的に考究する班である。この種の学問も日本には少いので、毎年多数の内留学生が各地から集っている。

文化事業班は、一般にジャーナリズムとよばれている「マス・コミュニケーション」を繞る問題と、その媒介体としての各種の機構に関する研究をその対象としている。

以上が社会学のアウトラインであるが、必須科目は、四班共通のものに、

社会学、法律学、経済学、統計学があり、労働管理班に、労働総論、労働問題、労働科学、労働法その他、職業指導班に、職業指導概論、心理学研究法、職業学、雇用論、職業相談その他、社会福祉班に、社会福祉概論、社会事業史、社会福祉技術論、臨床心理学、精神衛生学その他、文化事業班に、文化事業概論、新聞原論、新聞編集論、放送概論、出版法規、出版文化その他がある。

心理教育學科は、教育学専攻者と教員志望者のために、心理学に基礎を置いた科学的な教育について、基礎的な素養を授けている。この科には完備した心理学実験室があり、木学附設の各教育施設と連携して、新しい教育の理論と方法を研究している。また充実した教職課程が設けられていて、各学部の一般教員志望者に教職的教養を与えている。教育職員免許教科は次の通りである。

右	全	学 部		学 科		免 許 教 科
		理 学 部	經 済 学 部	化 学 科	理 学 科	
同	学	数 学 科	經 済 学 科	理 学 科	数 学 科	社 会 (中 学 校、高 等 学 校)
	科	物 理 学 科	經 管 学 科	理 学 科	商 業 (高 等 学 校)	社 会 (中 学 校、高 等 学 校)
	幼 稚 園 教 諭 (申 請 中)			理 科 (同)		社 会、職 業 指 導 (同)
						社 会、職 業 指 導 (同)
						英 米 文 学 科
						外 国 語 (英 語) (同)
						宗 教、社 会 (中 学 校、高 等 学 校)
						基 督 教 学 科
						史 学 科
						社 会、職 業 指 導 (同)
						社 会、職 業 指 導 (同)
						心 理 教 育 学 科
						社 会、職 業 指 導 (同)